

Ⅱ子どもの育成はⅡ

垣根を越えて

青少年健全育成 鯖江市民会議

我が子も他人の子も次代を担う青少年です。青少年がたくましく成長するよう、市民が垣根を越えて支えることを目的とした「青少年健全育成市民会議」があります。市内各種団体と各町内の県青少年育成推進員とで構成され、「青少年育成部会」「地域育成部会」「環境浄化部会」を設けて、青少年健全育成の啓発活動に取り組んでいます。

青少年育成部会

青少年が成長していく上で、家庭の果す役割は極めて大きいことから「家庭教育」の啓発事業をしています。

その一つとして「たくましい子を育てるには」と題し、深谷和子（東京学芸大）先生に講演をしていただきました。その中で、たくましい子とは「苦しいとき、

それを乗り越える力を持った子」と言われました。また、それには①現在より未来に希望をもたせる。②使い道のある人間だと自分を信じられるようにする。③友達を好きになる良い人間関係をつくらせる。これらが大切。子どもと親とのかわりの中で、遊びや多くの体験（手伝いを含め）をさせることが、たくましい子になる原動力だと述べられました。

地域育成部会

社会性や寛容さを培う場として地域社会は大きな役割があると思われます。その啓発を図るため、中学校下別に「青少年を考えるつどい」を開催しました。①思いやりの心、②地域でのラジオ体操、③学校五日制、④交通道德、⑤非行化防止などについて意見交換をして、地域の子は、地域で育てる意識の高揚を図ることに努めました。

環境浄化部会

青少年を取りまく環境には、健全な成長に有害と思われるものが多く見受けられます。



豊地区青少協
(小学校時代の思い出を語る高校生)

有害図書・ビデオや青少年（少女）が被害を蒙っているテレホンクラブ・ツーショットダイヤル、また非行化を誘引しやすいゲームセンターや量販店など、大人の社会が青少年に影響を与えています。

そのことから、あらゆる機会をとらえ、環境浄化への啓発を図り、青少年に「愛の一声」をかける運動を進めています。

告知板



●家庭教育を考える「はくみ」も九号を発刊することができました。

本号は、先般実施した「子ども達の意識調査」を主題に特集号とした次第です。この発刊については「青少年健全育成市民会議」から多大なご支援を頂いております。

●平成八年度

- 教育・文化講演会
期日 六月二十九日（土）
午後二時より
- 会場 文化センター
（東鯖江二一七一）
- 講師 多湖 輝先生
（千葉大名誉教授）
- 演題 「これからの家庭教育」（予定）
参加は自由です。お気軽にお出かけください。

発行
鯖江市教育委員会
鯖江市社会教育委員会
協力
丹南愛護センター鯖丹支所

はくみ

家庭教育を考えるシリーズ

9号

(特集) 小・中学生意識調査分析

世界体操開会式における進徳小児童の演技

(福井新聞社提供)

人間的なふれあいを求める子ども達

小・中学生の意識調査分析対談

平成七年十月、鯖江市内の小・中学生を対象に意識調査を実施し、このほどその集計が完了しました。今号は、その集計結果をふまえながら、四人の方に「登場を願ひ、幾つかの問題について分析をかねて対談をしていただくことにしました。ご出席は、元教員代表(A)・社教委員代表(B)・父親代表(D)・母親代表(C)、司会は市教委の方です。発言者は記号で表示しました。いずれも身近なことですので、この対談を通して、皆さんも一緒に考えていただければ幸いです。

子どもの悩みは真剣

司 今回の調査結果によると、鯖江市の子ども達は、健全に成長していることがよくわかるのですが、でも問題によっては「いろいろ考えねばならないな」と思うことがいくつもあります。まず最初に「子ども達の悩み」やその「相談相手」についてお話し合いをしていただきますと思います。

B 悩みのない人生は考えられないと思います。調査でも「ある」と「ない」

とはだいたい半々ずつになっ

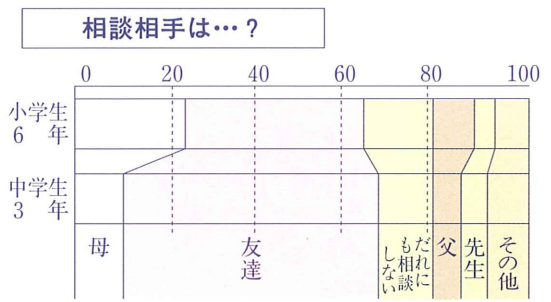
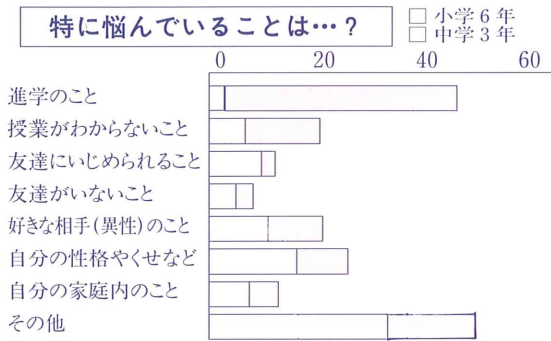
A 悩みがあるのが当然ですよ。内容は、大人と違ってはありますが、悩んでいる子はその子なりに真剣で深刻なのだと思えてくる抱擁力が必要ではないですかね。

D よく私達は「そんなこと位でなぜ悩むのか」などと軽く口にしてしまいがちですが、「自分は年頃になどであつたか」と考えると、また違った見方が生まれて来ますよ。これは大切なこと

C 母親は敏感ですから、「何か悩んでいるな」と、ピンとくるものがきつとあります。それがこないのは、どこか「自分に母親として欠けているものがある」と反省する必要がありますわ。

司 厳しいご意見が出ましたが、ここで「授業がわからない」という件については、どのように思われますか？

ゆとりをもって愛ある指導を



B 先生方は、授業の仕方は十分に研究されておられるでしょうが、私はそれよりも原因は別のところにある。すなわち、先生方は校務が多くて、心のゆとりがなくなっている。これが大い。ゆとりは時間ではなく心の問題ですがね。

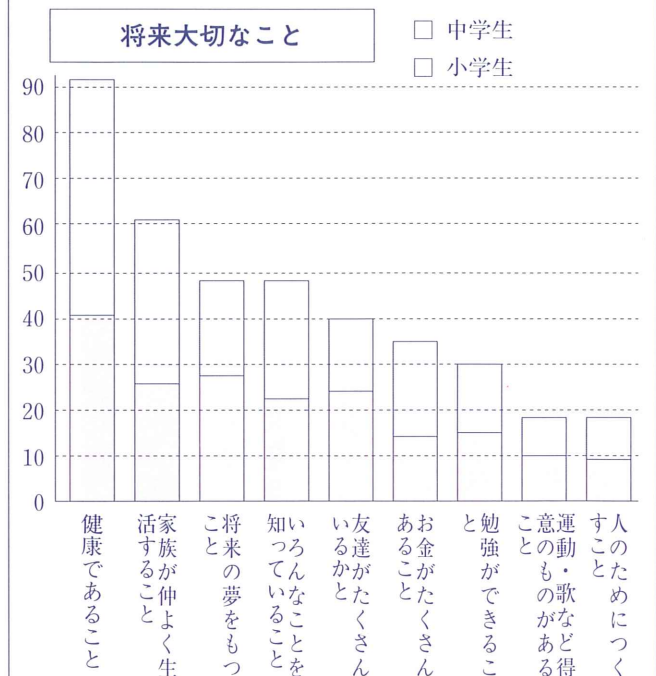
A 以前は、子どもが好きたまらない人が先生になつたものですが、今はどうでしょうか。

C それは、ちよつと評価できませんが、人間関係が本当にうまくいってたら授業も面白くて、その先生を好きになれるように思

健康こそ第一のもの

司 どうやら家庭のあり方の方向がいくらか見えてきたようですが、最後に子ども達が将来大切だと思っていることについて、よろしく。

A 私は想像していたよりも、意外に健康的な答が出たと感じました。もつとお金の事が上位に出てくると思っていたからです。健康・家族・夢・知識・友達そしてお金の順ですから



どもは宝ですよ。

B 子どもは本当に一人ひとりがある能力を秘めているかはかり知れないものがあります。これは親も先生も誰も見極められないことです。家庭も学校も社会も、そのことを深く心に刻んで接していかなければならないとしみじみ思います。

C 子どもによらず、欠点を指摘するより先に、良いところを見つけ、それをのばすことを忘れないでほしいと思いますね。

A お父さんお母さん、先生、学校、地域の方々、心あらたにして勇気を出し、自信をもって子どもの指導をしていただきたいと願うばかりです。

司 本日は、いろいろと価値のあるご意見をいただきまして大変ありがとうございました。皆さまの言葉の一つ一つが読者の方々にとって参考になるものと信じます。ご苦勞さまでした。

最後の葉を描くのは

その夜激しい嵐が吹いた。

翌朝、目をさましたジョンシーは、最後の葉がまだしっかりと壁にへばりついて残っているのを見た。

ジョンシーは、心をおどらせ、生きる意欲をとり戻したのであつた。

実はこの一葉は、事情を知っていた友人の老画家が、雨風の中もいたものだった。

オーヘンリーが書いた感動的な短編です。

さて、いまの子ども達に最後の葉を描いてあげるの誰でしょうか。

両親ですか。先生ですか。それとも友達ですか？

親の姿は 子に映る

司 子ども達の生活の拠点である家庭が持つ責任は、ますます重要になってくると思うのですが、子ども達は結構満足しているようです。いかがでしょうか？

B 「はぐくみ」七号に書かれていたフランスの青年の作文を思い起こします。「母さんは僕の欲しいものはなんでもくれた。でも、よく考えたらなんにもくれていなかった」というもの

でした。最初の「くれた」は主に物質。あとの「くれなかった」は人生観、こう簡単に分けると、九割の子の満足感には前者がもたらす満足感でないかと考えるのですが？

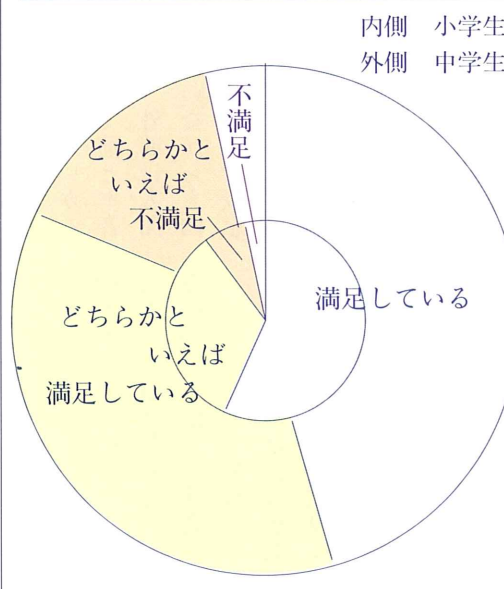
A しかし、小学生と中学生とはすこし質の変化を見せています。小学生は物があつて、皆仲良くにぎやかであること、中学生は自分を認めてくれたり、心の安らぎを得ることから生じる満足感です。この傾向は年代が進むにつれ顕著になってくるはずです。

C 子どもの成長の度合いによって質が変わる。これは当然のことでしょうが、親がその変化にうまく対応しているかどうか、そこが問題ではないかしら？

D そのとおりだと思います。不満組も一割以上ありますが、その理由も聞きたいところです。でも、家庭は、他人のうかがい知れない部分がありますから難しいでしょう。親自身の反省です。

A 家でのしつけをもっと大切に考えてほしいです。さき程も出ましたが、

あなたは自分の家庭に満足していますか



ともすると、「子どものことは全部学校でやってほしい」とおっしゃる方がありますが、学校はあくまで基礎的なこと、それが応用され体験されていくのは家庭、そこをはっきり認識しておかなければならないと思います。

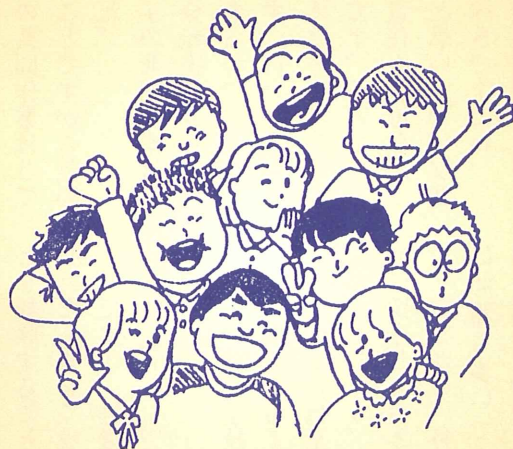
B 「学問は教える、人間性は育てる」といいますが、学校でいくらか基礎を習っても、家に帰ったら全

く違っていた、こんなことになる、子どもの価値観は迷い、狂ってきてしまします。両親の言動が子どもに与える影響は実に大きいですからね。

C でもまあ、旅行にいつてきちんと整理された部屋で、据膳の味とくつろぎ、短日であればいいですが、やはりごちゃごちゃしていても、家の方がほっとしますよ。家族は心の絆があれば多少のことがあ

は、病院の窓越しに見える、隣の建物のレンガに這うツタの葉の数に、自分の命を映していた。ツタの葉は、初冬の冷たい北風に吹かれ、一枚一枚と散っていき、遂に最後の一枚だけになってしまふ。

「あの一枚が散ったら私も死ぬのかわ」
ジョンシーはそうつぶやいた。



涓滴

重症で臥せっていた
ジョンシー

はぐくみ

うんです。子ども達は、学習の内容と共に、先生の愛情も求めているのですよ。

D それはたしかですね。もうひとつ、子ども達は、すべての能力を秘めているかわかりません。勉強が得意だった友人が、社会に出たとたん大変な能力を発揮して、大社長さんになった例もあります。だから勉強が「できる」「できない」で人間を評価してしまふことをやめなければならぬと思います。

A 平均以下の子を「落ちこぼれ」なんて言ったら

絶対駄目ですね。たとえそういう言葉を出さなくとも、教師の心は必ず子どもに伝わりますからね。このあたりに授業と先生を嫌う一つの理由があるように思いますよ。失礼ですがね。

D いじめは大きな社会問題となっていますが、近頃のは陰湿ですよ。

A アメリカでは、いじめがあると「弱い者をいじめるのは、正義に反し、勇氣ある人間のすることではない」という空気が、学校・社会全体を支配しているのだと聞きますが、日本にはそれがありません。大い

「いじめ」に対応できない「七割」

に学校・家庭・社会を含めて教育のあり方を反省する必要があると思います。

A ともすると「いじめる方も悪いが、いじめられる方にも欠陥があった」など、つい傍観者の態度になってしまふ。これはいけませんね。

C 親が厳然と立ち向って解決したという例もあるところから、親の態度も大切ですね。また、いじめられている子どもは、どこかで何らかの信号を発しているものです。それをキャッチする親や先生の能力が重要なのです。そのアンテナをいつも磨いておくことでしようね。

D 中学三年位になると、七割ぐらいがいじめに

すべき事ではありません。この事件など人間性が欠如した世の中になりつつある。残念ながらそう思われて仕方ないのです。我々は、絶対にこのような行為をする子どもを育ててはいけません。大いに非は非として語ってやるべきだと思います。

A しかし実態は、いじめに対して消極的態度や逃避的態度をとる子が全国的に増加の傾向にあるのは、全国統計でも歴然としています。学校・先生・社会がこのことを十二分に認識し、協力して子どもの指導に身骨を砕くべきです。

的な家庭の条件の第一は、父親の存在が大切だ」と言っています。いま普通の家庭では、父権が失墜したと指摘されています。ちよつと理想と現実が逆になってしまった感がありますね。困った事です。

D これは父親の一人として全く面目ない結果で、深く反省させられます。

B ところで、「相手はいない」「家族の誰とも話さない」「こういう孤独な子を、家族や先生はキャッチが出来ないのですかね？。あの子は生来ああい性格なんだと安易に納得しているのではないのでしょうか。

C そんな部分もたしかにあるようですが、決して単純に勝手に決めてしまっているのではないと思いたす。「なんとか善処しなければ」と思いつつなかなか指導の手が届かないのではないのでしょうか。

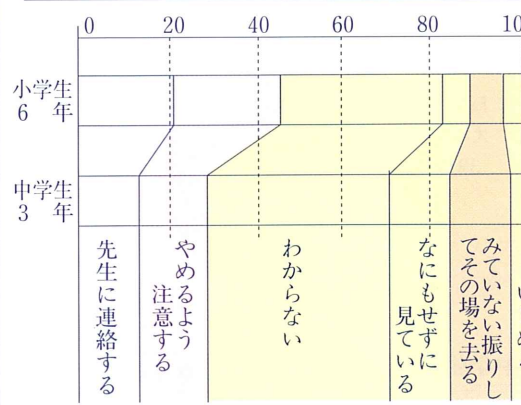
A 学校や家庭のあり方に大切なものが欠けていることを鋭く突つけられているような気がしてなりません。熟考したい内容です。

悩みを相談できない子もいる

司 悩みがあつても相談する相手がおらず孤独で苦しんでいる子もいるわけですが、その相談相手も「友達」が約六割、次いで母親、父親の順となっていますが、この事についてどうお考えですか？。

A ある精神医が「理想

いじめているのを見たときどうしますか

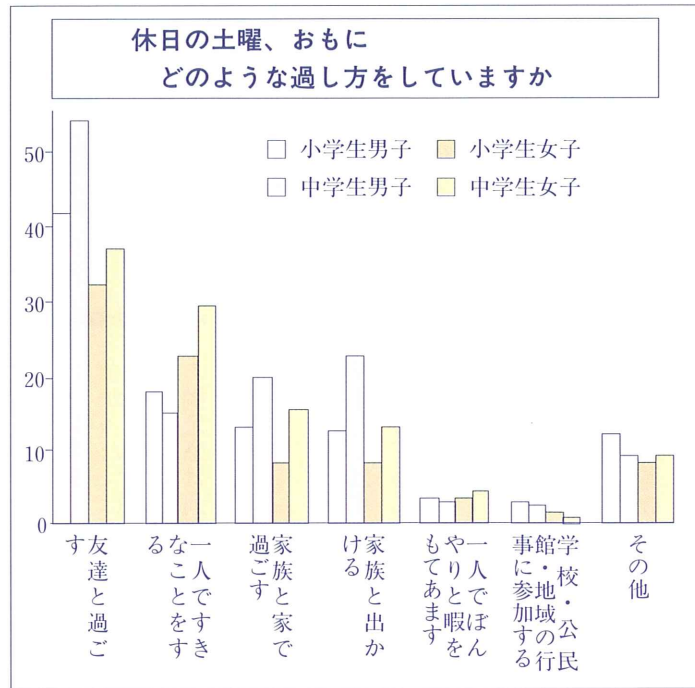


では、いじめがあると「弱い者をいじめるのは、正義に反し、勇氣ある人間のすることではない」という空気が、学校・社会全体を支配しているのだと聞きますが、日本にはそれがありません。大い

と、七割ぐらいがいじめに

ある精神医が「理想

ある精神医が「理想



司 根は深く、話は大きな休日の過ごし方にも、いままでお話しだった諸問題

**親子のふれあいで
たくましい心を**

司 根は深く、話は大きな休日の過ごし方にも、いままでお話しだった諸問題

は東大出だ、あの方は阪大卒だつて」などとまず出身校でランクをつけてしまいがちです。高校の場合もそうでないでしょうか。そのため、もう幼稚園から有名校を選んだり、そんな感覚で熟通いをさせたりしていいのでしょうか。就職の際にも出身校で評価を下すという、こうした現実をいやというほど見せられています。だから、学歴だけで人間は語れない、といっても誰も本気で信じてくれません。

司 根は深く、話は大きな休日の過ごし方にも、いままでお話しだった諸問題

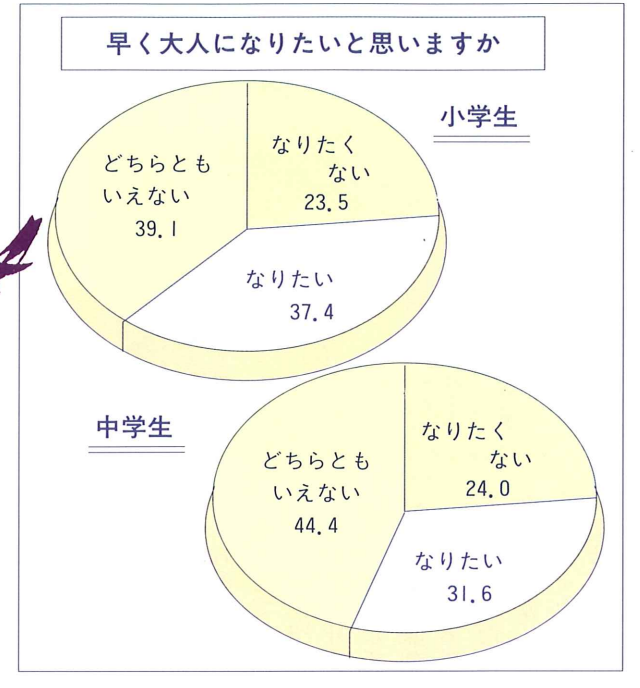
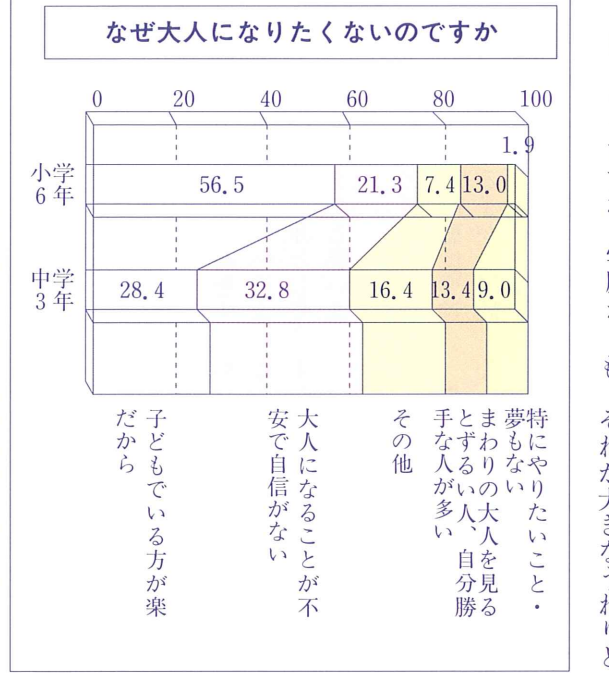
司 根は深く、話は大きな休日の過ごし方にも、いままでお話しだった諸問題

嫌いだという子も

司 大人社会に鋭い批判を突きつけているようだとおっしゃいましたが、それを裏付けるように「大人になりたくない」という子が二、五割も。「どちらともいえない」と答えた子どもを加えると七割近くになっています。(中二)この件についていかがですか？

A その理由を見ると、

司 根は深く、話は大きな休日の過ごし方にも、いままでお話しだった諸問題



司 子どもの悩みの深い部分には、学歴偏重社会もあると思いますが、どうでしょう。

司 子どもの悩みの深い部分には、学歴偏重社会もあると思いますが、どうでしょう。